

全ての子どもが楽しい時間を 過ごすための提案

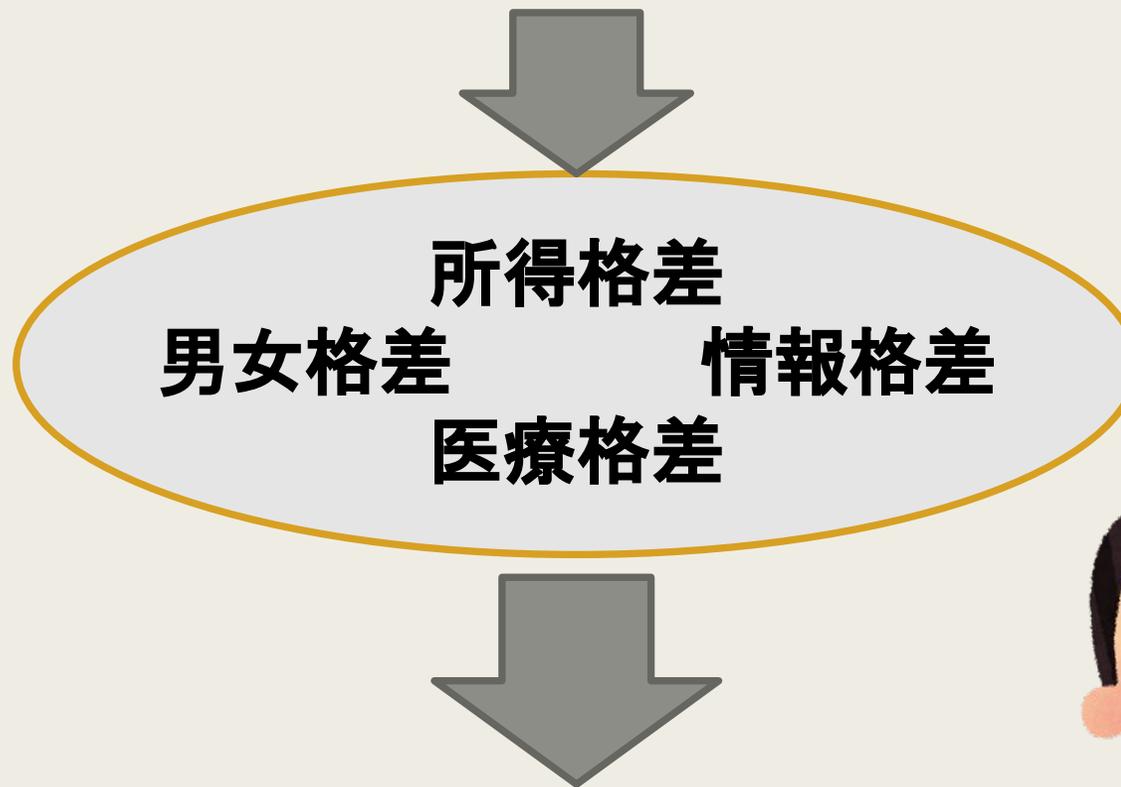
貧困家庭の子どもへの支援

10 人や国の不平等
をなくそう



はじめに

格差是正とは...?



家庭の経済格差 その中でも特に「子どもの貧困」

子どもの貧困

子どもの貧困とは親の経済的理由で人間としての権利が行使できず選択肢が制限されること

原因:親の失業、病気、災害



子どもの貧困を考えるにあたって

「子どもにどのような影響があるのか」

を前提におくことが 大切!

絶対的貧困と相対的貧困の違い

■ 絶対的貧困…人間として最低限の生存を維持することが困難な状態

2015年に1日に1.90ドル(約218円)もらっている人をさす
特に南アジア地域とサブサハラ・アフリカ地域などの発展途上国に集中している

■ 相対的貧困…その国の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態

2015年時点では4人世帯でやく250万円以下の所得をもらっている人のことをさす
発展途上国だけでなく先進国にもみられる



問題点



出典: <https://www.pieces.tokyo/hinkon-koritsu>
U

日本の現状

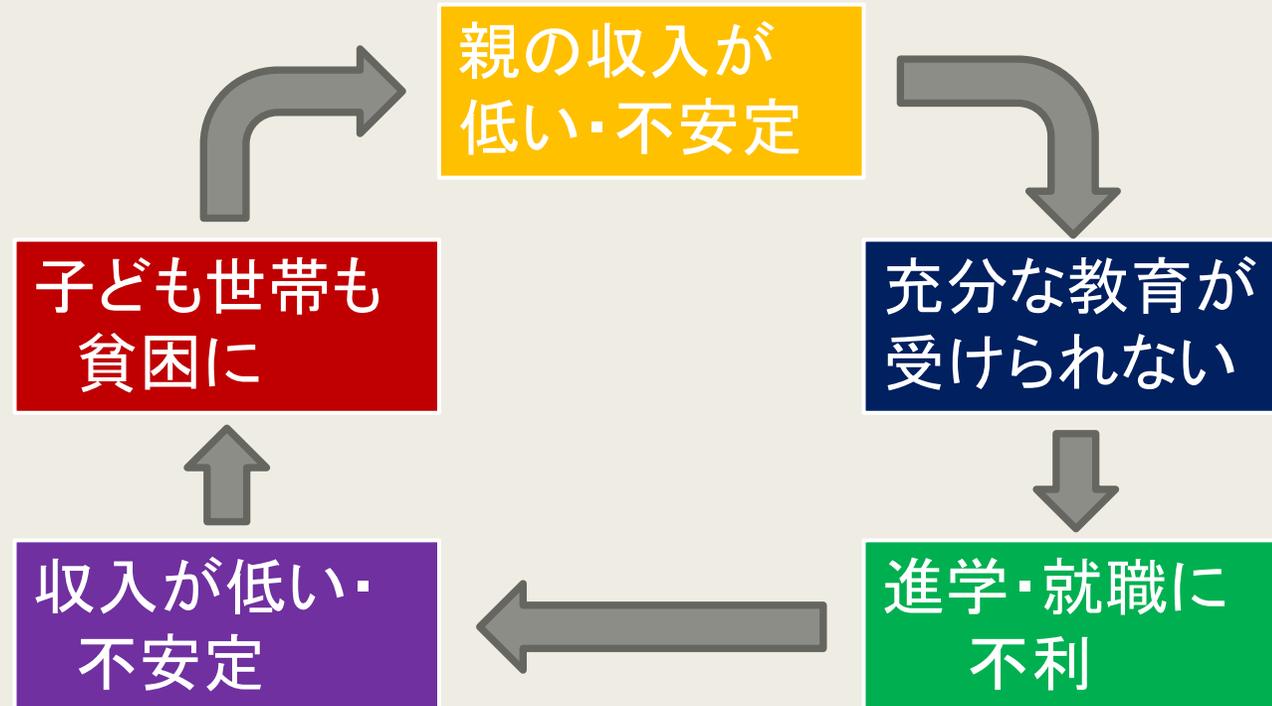
現在日本では相対的貧困が深刻化している

データからわかるようにこの相対的貧困層の割合が年々増加してきていて、現在7人に1人の割合で存在すると言われている

特にひとり親家庭における子どもの貧困率は半数をこえており、これは先進国のなかでも**トップクラス**

子どもの貧困による影響

- 子どもが部活や勉学に打ち込めない
- 金銭的な理由で大学進学を断念してしまう
- 子どもが家計を支えるためにアルバイトしなければならない



提案

「放課後教室の設置」

《目的》貧困家庭の子どもが人格・思考形成できるような体験活動を提供し経験の差を補給する。

《内容》家庭の事情で困窮している子どものためにキャンプやボランティア活動など、みんなで協力して楽しい思い出を作ってもらい、コミュニケーション能力育成や友達作りの手助けをする。
また、フードバンクを利用して食事を提供する。



対象: 所得250万円以下程度の家庭



松本伊智朗教授について

専門領域

教育福祉論 社会福祉論

研究テーマ

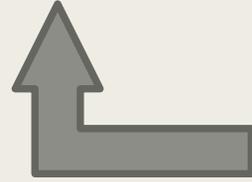
子どもの貧困と教育福祉



An illustration of a diverse family group. In the back row, from left to right: an elderly woman with grey hair and a purple top, a man with glasses and a green shirt, a woman with dark hair and a pink top holding a baby, and an elderly man with grey hair and a brown jacket. In the front row, from left to right: a young boy in a blue shirt, a young girl in a red dress, and a young girl in a pink top. All characters have simple, friendly facial expressions. The background is dark.

子どもの貧困が生まれる背景

子どもは家族単位で生活する



大人に依存して生きている



子どもにかかる養育費

家計が負担

or

国が負担



子どもに悪影響



子どもの格差の要因

家族の格差・貧困

**同時に進行すると
子ども間の格差大**

子どもの過ごす場所

養育費自己負担

提案した「フードバンク」について

解決にはなっていないが緩和にはなる。

食料がないのは、切迫している状態である。

問題全体を解決しなくても、一人でも二人でも救えることができれば良い

提供の仕方を工夫する必要がある

制度のおかげで問題を知ることができる

大切なこと

1. 家族が貧困から守られること
2. 社会全体で守られること
3. 子どもの場所をお金儲けの場所にしない

例: 遊園地、塾、スポーツクラブ



気づいたこと



- ・対象を狭める→惨めな思い
- ・今、子どもが楽しいことに価値がある
- ・体験が不足≠貧困になる

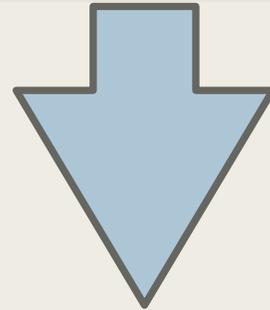
新たな問題

- 対象になる人の線引き
- 対象になる人が惨めな思いや恥ずかしい思いをしない
- どういう風に運営していくか
- どういう風に知ってもらおうか



例えば...

医療保険は国民全員が対象



保険証を出すことは恥ずかしくない



新しい提案

「低学年児童への“みんなの教室”開放」

《内容》放課後に教室の一部を学童のように利用する。

(例) 夕飯時に家族がいないのでみんなで食べる
近くに遊び場がないので学校に行く
家で宿題をしないのでみんなでする

《目的》低学年児童が家で寂しさを感じる時間を減らすため。
放課後子どもだけで危険な遊びをするのを防ぐため。

✓フードバンクの活用 ✓地域住民の雇用 ✓コミュニケーション力の成長



提案

「放課後教室の設置」

始めの

《目的》貧困家庭の子どもが人格・思考形成できるような体験活動を提供し経験の差を補給する。

《内容》家庭の事情で困窮している子どものためにキャンプやボランティア活動など、みんなで協力して楽しい思い出を作ってもらい、コミュニケーション能力育成や友達作りの手助けをする。
また、フードバンクを利用して食事を提供する。



対象: 所得250万円以下程度の家庭



①孤独感の緩和

- 家で1人いる時間が減る
- 家での問題を気にせずいられる
- 人と接する機会が増える

③経験不足を補う

- 学習の機会が増える
- 対人関係を学ぶ場が増える
- いろいろな体験ができる



②健康的な食

- おやつを食べ過ぎを防ぐ
- 夜ご飯を抜かさない
- 孤食の回避

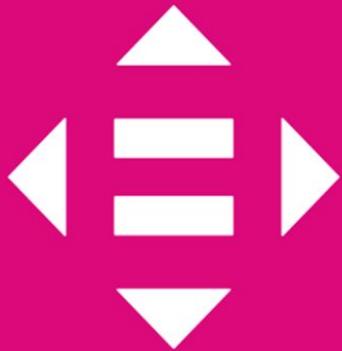
④安全な遊び場を提供

- 交通事故のリスクが減る
- 常に大人の目がある
- 子ども同士の交流が深まる

「全ての子どもが楽しい時間を過ごすための提案」

《新提案》低学年児童への“みんなの教室”開放

10 人や国の不平等
をなくそう



- ・金銭に囚われず子どもが成長する機会を得られる社会へ
- ・社会全体で子どもを育てる

